

令和2年度実施事業 課題対応取組み一覧表

資料11

【総合相談窓口(ランチ)】

区名	ランチ名	活動テーマ
北区	大淀	「福祉・包括ケア・まちづくり推進から支え学び育て合い～共感～」 コロナ禍、集会場活用～『カフェOKJ通信創刊』
	梅田東	コロナ禍の高齢者の実態把握を行い、問題の早期発見・介入を行う
	豊崎	高齢者のフレイル予防
西区	花乃井	コロナ禍においても安心して参加できる集いの場の創設
港区	港南	ケースが困難化する前に発見対応が出来る体制の構築
	市岡東	新型コロナウイルス感染拡大の影響下における相談窓口の周知
	築港	多職種との連携であらゆる相談を拾い上げる
浪速区	日本橋	相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のふれあいの場づくり ～連携と協働の為に体制づくり～
生野区	大池	複合的な課題をかかえる世帯の早期発見・対応
	生野東	・地域の実態把握とランチの周知活動をおこなう ・認知症予防の取り組みや、認知症当事者と家族に対する支援の推進
	田島	認知症になっても住み続けられる地域に向けて、早期発見、早期相談のできる関係づくり
	新生野	相談内容件数が多い認知症への取り組み 高齢者への認知症予防対策 地域住民(若い夫婦世代・児童含む)に対する、認知症啓発
	新巽	様々な世代の地域住民の方々にランチの機能、役割を知っていただけるように周知活動に努め、顔の見える関係づくりを構築し、何かあれば気軽に相談してもらえるような身近な存在になる。
阿倍野	昭和	コロナ禍における早期発見・早期対応に向けた地域支援について
住之江区	加賀屋	地域関係者との情報共有(ネットワーク委員会再構築)
		集合住宅における地域診断
	新北島	かなえる体操・ふれあいサロン
		地域めぐり
		出前相談
		地域交流会
	南港北	多職種連携を目指したアプローチ
小地域ケア会議		
出前相談・周知活動		
東住吉	矢田東	課題に対してチーム支援が行えるようなネットワーク作り
	白鷺	ランチの活動周知を通して、地域との高齢者の情報共有を広げる
	矢田西	課題を抱える高齢者を含む世帯との顔の見える関係性の構築

【総合相談窓口(ブランチ)】

区名	ブランチ名	活動テーマ
西成区	天下茶屋	男の足湯『のぞみ屋』の開催
	山王	地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る
	成南	地域高齢者の居場所作り
	梅南・橘	地域関係者と専門職との協働取組みと仕組みづくり(つながりの場づくり) ・松之宮地域での百歳体操・集いの場スマイル ・梅南おとこまえ百歳体操開催に向けて
	南津守	地域の高齢者が気兼ねなく集まれる居場所作りと担い手の発掘
	あいりん	セルフネグレクトについて広く啓発するための活動を行う

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称	北区大淀地域総合相談窓口(ランチ)
-----------	-------------------

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	「福祉・包括ケア・まちづくり推進から支え学び育て合い～共感～」 コロナ禍、集会場活用 ～『カフェOKJ通信創刊』	
地域ケア会議から 見えてきた課題	タワーマンションや集合住宅における「複合的課題」「重度化」「情報の届け方」などの様々な課題が、北区全域にある。そんな中、圏域内の大淀北住宅(以下「北住宅」という)においては、これまでの活動の場や、総合相談、会議の中から、「地域の会館まで行けない」「遠く感じる」「しんどい」「ライフまでが限界」という声を繰り返し聞いた。一方、「北住宅にある集会所を以前のように活用して、住民同士のつながりを持ったり、介護予防等への取り組みの下地となるようなことをしたいと思っている」とおっしゃる住民がいっぱいだった。北住宅内には、多様な意見があり、なかなか描いている集会場活用まで至らない状況が続いていた。総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)が相談を受けて、幾度も話合った末、前年度から、ランチの母体である淳風おおさかを初めとする専門職と住民とが協働する活動がスタートした。それぞれの強みを生かして、北住宅の集会所が、情報交換の場、ともに学習する場、つながる場となりつつあった。その矢先でのコロナ禍、活動が休止状態となってしまった。「どうやって、継続していくか」という大きな課題に直面した。	
対象	大淀北住宅住民と福祉専門職	
地域特性	大阪駅から徒歩圏内で、新梅田シティ、梅田スカイビル、ウェスティンホテル大阪、ザ・シンフォニーフォールといった施設を持つ大淀東地域。3つのクリニック、診療所がある。介護事業所などは少なく入院できる病院がない。郵便局が2つ、信用金庫が1つスーパーが2つある。その中で、大淀北1丁目に位置する北住宅は、約120世帯が居住、内、100名近くが70歳を超えている。11階建、エレベーターは各階に停まる。十三バイパス、淀川が近在する。阪急神戸線/中津駅、地下鉄御堂筋線/中津駅、JR東海道本線/大阪駅が最寄り駅となる。北区役所や北区社会福祉協議会からは距離があり不便である。大淀東地域の福祉会館や中三会館まで、成人で徒歩10分弱程度(高齢者では倍ほどの時間がかかる。)の距離がある。おおよその中間地点にスーパーがある。バスを利用する方も多く、大阪、十三、中津、福島、野田阪神等の駅の付近が生活圈域と言える。数十年前では、集会場を活用し、住民同士の拠り所があった。住宅周囲の敷地は広く、中庭がある。	
活動目標	【孤立しないでつながること・フレイル】を共通のテーマとして、「まずは掲示板で繋がろう!」ということになった。コロナ禍でこもりがち生活が継続し、不安な中、「ひとりではないんだ」と感じていただく。少しでも人の温かみを感じられる工夫として、手書きによる寄せ書き風のちらしを作成して、掲示板(ホワイトボード)に掲示する。不安なことに対し気軽に相談できて、ニーズに対して専門職がタイムリーにサポートできる土台をつくる。	
活動内容 (具体的取組み)	コロナ禍で集会場の使用が困難になり、活動が休止状態の中で、北住宅の住民(役員)との意見交換を数回開催し中断してしまうのではなく、何らかの形で継続できないかと模索した。訪問や紙媒体での情報発信に対しても感染の恐れがあると不安の声があった。動画発信に対しても、ほとんどの高齢者が携帯やパソコンで動画を見ることができない現状がある。検討を重ねて、住民が日々通路としている「掲示板(ホワイトボード)」を活用し、寄せ書き風の『カフェOKJ通信創刊』するに至った。また、どこに電話をしていいのかかわからない、電話をかけるには抵抗がある方が気軽に不安や困りごとを書いて投函できるように、意見箱(郵便受けに張り紙して代用)も設置してみた。ペン、用紙も近くに準備をした。通信欄には、ランチ、母体の淳風おおさか、そして今回の創刊にあたっては、北区大淀地域包括支援センター(以下「包括」という)にもコメントを依頼し協力参加していただいた。	

<p>成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>『集会場を活動の場に』『孤立しないでつながる』『フレイル』数回に渡る検討を踏んだことで、住民とランチ、淳風おおさかとの関係が深まった。掲示にたどり着くまでの間に、相談につながる個別ケースも出てきた。住民の中に、早期につなぐという意識が芽生えた。ケースの支援においても、包括と共有できており、専門職の幅が広がった。意見箱に投書がない結果となっている状況であるが、『カフェOKJ通信』を見た話題から、『コロナ禍での不安』『予防接種のことが分かりにくい』『遠くに行けないのでかかりつけ医に接種してもらった』『接種したら熱が出た』『二度目の接種を受けた時は独りであるのが不安』『何かあったら電話していいのかな』『救急車が来たら怖い、孤独死はいや』『既に、この方たち(淳風おおさかや包括やランチ)にお世話になっている人もいるけど、どうやってつながったんやろう』という声を住民役員が聞き取ってくださいました。住民同士が繋がって、住民と専門職があつながつた。専門職どうしがつながつた。淳風おおさかにとって、今回、担当をした居宅ケアマネジャーは、介護保険サービス調整以外の場で、地域住民の声を身近で聞くことで、具体的に、自分たちに何ができるだろうと意識し、同じ方向を向いて動き出した。課題は山積みであるが、今回、あきらめなかったことで、ターゲットを絞った北住宅という小圏域での協働し、共感したことは、地域づくり、共生につながっていく土台となる。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>最終的には、集会場が活動の場、拠り所となるような取組を継続していきたい。今回、『カフェOKJ通信』は創刊できたが、意見箱に意見は直接入らなかった。代替えを見つけしていくことや補足することも課題の1つである。コロナ禍が継続する中で、住民の『正直な声(本音)』『不安』『困りごと』を拾う手段を見いだししていくことが大きな課題である。多機関、他機関とつながること、住民同士がつながること、個々の力が十分発揮できるような環境を整備していく。一見何事においても無関心に見える住民であっても、興味のあること、つながっているところ、人、その方なりのコミュニティがある。それを知ることによって一人一人の個性に沿った多様なサポートを実践していくことが課題と捉える。そのためには、実践、評価、分析していく時間、専門的な知識が必要になってくることも課題と捉える。</p>
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和3年7月14日(水)</p>
<p>専門性等の該当 (該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目(特性) についてのコメント</p> <p>*今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見</p>	<p>コロナ禍において高齢者の孤立を防ぐため、高齢者の居住率の高いマンションで住民の声を把握し地域住民と意見交換を重ね、何ができるか一緒に考える住民と協働した取組みは評価できる。また、通信を地域や関係機関と一緒に作り、住民に温かみある情報を届けることで個別の相談につながるとともに、地域住民においても高齢者の見守りの重要性について意識づけにもなっており取組みの成果として現れている。これらから地域性、継続性・専門性として評価できる。 今後も地域住民の声を聴き一緒に考え作り上げていく過程を大切に取組みをおこない地域や関係機関等と高齢者の孤立防止の支援を期待する。</p>

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称

北区梅田東総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	コロナ禍の高齢者の実態把握を行い、問題の早期発見・介入を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	1.新型コロナウイルス感染症の影響で地域活動の場が減少し、見守り活動が難しくなっている。 2.マンション等居住者の実態把握が難しい。 3.自ら支援を求めることができない高齢者へのアプローチが難しい。	
対象	圏域内地域住民	
地域特性	・担当圏域が梅田周辺で高層マンション、商業エリア、古い町並みが混在し多種多様な方がいる。北区人口の9割がマンション等での生活となっており、高経年のマンション等では高齢化が進んでいる。 ・圏域により高齢者の予防意識に違いがある。梅田東・済美・堂島地域では百歳体操等の参加者も多いが、北天満地域では少なく、曽根崎地域は高齢者人口が少なく地域活動自体が少ない。	
活動目標	1.コロナ禍の高齢者の見守り方を工夫し健康・予防意識を高める 2.マンション、郵便局への周知活動を通じて、管理人や局員と顔と顔が見える関係作りを促進し、コロナ禍でも必要時に相談できる体制を構築する。 3.北天満地域の扇町市営住宅高齢者を訪問し実態把握に努める。	
活動内容 (具体的取組み)	1.コロナ禍の高齢者の見守り取組 第1回緊急事態宣言下の高齢者の見守り取組 対象:百歳体操参加者、総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)が見守りをしてきた独居・高齢者世帯 24人 内容:百歳体操が休止し、個別訪問も難しく直接高齢者の状況を把握できないため、安否確認と生活状況把握のため電話(訪問4人)による見守り取組を行った。聞き取り内容は「見守り確認表」を作成し記録、分析を行い対応した。 分析結果と対応: ・かかりつけ医・重症化リスクのある持病の有無を確認。通院控えが生じていないか確認し「家族の付き添いが必要なため通院を遠慮してしまう」という方に対して、かかりつけ医に相談を促し、電話での内服処方継続に繋がった。 重症化リスクのある持病は、高血圧8人・糖尿病2人・肺癌1人・慢性閉塞性肺疾患1人 ・かかりつけ医の無い方2人、かかりつけ医はあるが連絡先がわからない方1人に体調不良時の連絡先として「大阪市新型コロナ受診相談センター」の連絡先を伝えた。 ・マスク不足5人に布マスクを配布。トイレトペーパー不足無し。 ・食事について「まとめ買いで同じ食事になる」「同じ惣菜・弁当になり栄養が偏る」等の声があったため、喜久寿苑管理栄養士と栄養に関するチラシを作成し配布。 ・「趣味活動が中止」「体重が増加した」「外出は買い物のみ」など運動不足の声が11件、「室内で百歳体操を実施」「ベランダで体操をする」などの声も受け、済生会中津病院理学療法士と自宅のできる運動のチラシを作成し配布。 (配布内容) ・5/12 梅田東:いきいき百歳体操のサポーターへ30部配布 ・5/14 北天満:北天満振興会会長へ120部配布、回覧板にて周知 ・5/16 済美:民生委員会にて100部配布 ・5/18 堂島:堂島会館へ25部配布し、体操DVD発送物に同封	

<p style="text-align: center;">活動内容 (具体的取組み)</p>	<p>2.圏域内郵便局の高齢者実態把握とランチ周知 目的: コロナ禍でも高齢者は定期的に郵便局を利用すると考え、支援が必要な高齢者の実態把握と掘り起しを目的に圏域内郵便局を訪問した。 内容: 圏域内郵便局9か所・述べ19回訪問 各郵便局局長へ高齢者の利用状況を確認、支援が必要と思われる高齢者の有無について確認を行った。 局長へランチのパンフレットやチラシを提供し、気になる高齢者の来局があれば、ランチの案内や本人の了解が得られれば局員からの相談も可能であることを伝え、コロナ禍での見守りネットワーク構築に努めた。 また喜久寿苑管理栄養士作成のフレイル予防のチラシ、国民生活センター発行の新型コロナに関連する詐欺の注意喚起チラシなども提供し、必要な高齢者へ配布を依頼した。 結果: ビジネス利用が多い郵便局6局と高齢者利用の多い3局に分けることができた。高齢者利用の多い3局(中崎・浪花・曽根崎新地)については令和3年度も継続訪問し、郵便局員との見守りネットワークを継続する。</p> <p>3.北天満地域の扇町市営住宅高齢者訪問 目的: 高齢者が多い扇町市営住宅において、コロナ禍でも孤立しないように個別訪問による実態把握を行い、必要に応じて支援に入る。 内容: 北区地域包括支援センター(以下「包括」という)の協力のもと、70歳以上の独居・高齢者世帯で地域活動や介護サービスに繋がりの無い世帯を抽出、訪問対象を48人/36世帯とし、包括・区保健福祉センター保健師・ランチが調査票を用いて訪問し聞き取りを行った。 1回目訪問日: 令和2年11月10日(木)10時～16時 2回目訪問日: 令和3年3月上旬 1回目の不在者宅へ再訪問、民生委員が状況把握している世帯は訪問対象外とした 結果: 至急に支援が必要な世帯は無かったが、今後見守り支援が必要な高齢者を、包括・区保健福祉センター保健師・民生委員・ランチで共有し、令和3年度は見守り継続を行うこととした。 また、訪問結果について北天満民生委員協議会にて包括と共に報告を行った。 民生委員協議会報告日: 令和2年12月5日(土)、令和3年3月25日(木)</p>
<p style="text-align: center;">成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>1.第1回緊急事態宣言下で電話等による見守り取組を行った結果、「運動不足」「栄養の偏り」など高齢者の実態把握ができ、フレイル予防に関する啓発チラシ配布へ繋がった。 2.郵便局訪問では、高齢者の利用率が高い圏域内郵便局を選定することができた。今後は3局(中崎・浪花・曽根崎新地)に絞って訪問継続し、局員と顔と顔が見える関係を築き、認知症高齢者等への早期相談に繋がられるようにしていく。 3.北天満地域の高齢者実態把握に関して、扇町市営住宅を再訪問し継続見守りが必要な世帯を把握することができた。至急に支援が必要な世帯は無かったが、強化型包括、区保健福祉センター保健師、民生委員と見守り体制を構築することができた。</p>
<p style="text-align: center;">今後の課題</p>	<p>1.コロナ禍において地域活動が減少し高齢者の見守りが難しくなる中、電話による見守りや、百歳体操を中心に開催される地域活動には積極的に参加し、高齢者の実態把握に努める必要がある。講演会の開催が難しい場合は、代替として法人内の専門職の協力を得て、フレイル予防に繋がるチラシ等を作成し啓発活動をしていく。 2.高齢者の利用率の多い圏域内郵便局3か所については継続訪問し、特に認知症高齢者に対して必要時に相談ができるよう局員と見守りネットワークを構築していく。高層マンション・マンションへの周知活動の継続と、マンション単位で実施される百歳体操にも継続参加し、管理人・住人と関係性を継続していく。また管理人不在の高経年の小規模アパート・ハイツなどへの周知方法を検討する。 3.北天満地域は住民の予防意識向上のため関係機関、地域関係者と協議し取組み内容を決定していく。高齢者の多い扇町市営住宅については包括、区保健福祉センター保健師、民生委員と連携し見守り継続していく。</p>
<p style="text-align: center;">以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p style="text-align: center;">令和3年7月14日(水)</p>
<p>専門性等の該当 (該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性</p>
<p>評価できる項目(特性) についてのコメント</p> <p>*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見</p>	<p>コロナ禍における高齢者の見守り活動として電話による実態調査を行い、把握したニーズを発端とし伝えたいことをリーフレットにして地域に配布する活動は地域性において評価できる。また、コロナ禍の状況でも対応できるよう手法を変えた地域住民への見守り活動や高齢者が多く利用する郵便局と連携した見守り活動は継続的・浸透性のある取組みとなっており、全戸訪問においては、行政や地域と協働した独自性のある活動となっている。 高層マンションが多い地域でランチの活動の大変さもあるが、見守り活動をとおしして要援護高齢者の早期発見へとつながるよう今後も取組みを継続し、見守り活動のネットワークが広がることを期待する。</p>

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 北区豊崎地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()
活動テーマ	高齢者のフレイル予防
地域ケア会議から 見えてきた課題	新型コロナウイルス感染症流行の影響で、高齢者が感染予防の観点から自主的に外出を控えるといったことが起きており、フレイル(虚弱)が心配される課題が多かった。地域の行事も中止になっており、外出する意欲を高めにくい状況が続いた。
対象	本庄・豊崎地域の高齢者
地域特性	高齢化率は、豊崎18.5%、本庄19.7%となっている。本庄・豊崎両地域においては流動人口が増加している一方、地域ネットワークの分散が見られる。両地域共に地域関係者による福祉活動に対する積極的に取り組みがある一方、地域ネットワークとつながっていない層が存在している。
活動目標	自宅での高齢者のフレイル予防に取り組む
活動内容 (具体的取組み)	自宅でも高齢者が運動に取り組めるように、スポーツトレーナーを中心としてデイサービス職員によって運動の内容を選定した。デイサービス職員が実際に運動のやり方を説明している動画を撮影し、インターネットの動画配信サイトに登録した。その周知の為、チラシを作成し、大淀老人福祉センターや豊崎会館や本庄会館に掲示するとともに持ち帰り用に置かせていただいた。UR都市機構のマンションや他の大規模マンションについても掲示板やエレベーター内への掲示も行った。UR都市機構のマンションで百歳体操が再開された際にも、参加者へ配布を行った。また、ケアマネジャーやランチが高齢者の自宅を訪問する際にも持参し、告知を行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>チラシの配布は一月から行った。活動する中でいただいたご意見を参考にして、修正を加えつつ高齢者のフレイル予防に取り組んだ。</p> <p>当初はインターネットの動画配信サイトへ登録し、自身で検索してもらうように想定していた。すると「そんな動画があるなら見たいので、どうやったら見られるか教えてほしい」という意見をいただいたので、周知を進める為に対象サイトのURLをQRコードにしてチラシに印刷し、配布を行った。「インターネットは使えないので見られない」という感想をいただいた為、チラシ自体に運動のやり方を説明するようにした。「同じ運動ばかりだと飽きる」という声も出た。そこで鍛える体の部位を変えるようにして、月替わりで新しい運動を紹介するよう五種類のチラシを作成し配布を行った。</p> <p>配布した方達に感想を伺うと、「運動不足を感じていたところなのちょうど良かった」、「(子供として)親に運動してほしいと思っていたが、具体的なものがないと言いくかった。チラシがあると言いやすい」、「地域の行事も無くなって、暇だったのでやってみた」、「一回で一つの運動だけなので取り組みやすい」という意見があった。</p>
今後の課題	自宅でするフレイル予防というテーマで運動の紹介を行ったが、「大勢で集まるとの運動ならやる気になるが、自宅一人では中々運動する気にならない」という感想もあった。自宅での運動と集まって行う百歳体操等を組み合わせて、高齢者のフレイル予防に取り組みたい。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月14日(水)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	<p>コロナ禍において、外出ができない地域の高齢者のニーズから専門職とフレイル予防のため自宅でする運動を考案してリーフレットや動画を作成し周知したことや実際に運動を行った反応を把握し内容を修正するなどの活動は地域性・浸透性・独自性として評価できる。また、今回の取組はコロナ禍に関係なくフレイル予防において有効である。今後もフレイル予防の取組は大切であり、従来のようにみんなで集まり行う対面型と今回のようなオンラインを併合した新たなフレイル予防の取組の推進に期待する。</p>
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 西区花乃井総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	コロナ禍においても安心して参加できる集いの場の創設	
地域ケア会議から 見えてきた課題	高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯の増加により、必要な情報が届きづらい状況がある。また、コミュニティの希薄化により、周囲も異変に気づきにくく、課題の早期発見が困難となっている。加えて、新型コロナウイルスの影響で自粛生活が長期化したことでこれまで以上に地域とのつながりの機会が減少している。	
対象	江戸堀地域、広教地域に在住の高齢者	
地域特性	西区は高齢化率が大阪市内で最も低い区であるが、近年、西区に移住する高齢者が増加傾向にある。高齢者人口の増加やマンションが多いことにより、住民同士のつながりが形成されにくく、高齢者が孤立しやすい状況にある。	
活動目標	コロナ禍においても安心して参加できる催しを開催する 催しを通じて地域住民と交流し、課題の早期発見につなげる 集いの場を設けることで、ランチを身近な存在に感じていただく	
活動内容 (具体的取組み)	<p>花乃井ランチが中心となり定期的に開催していた催しが、併設する特別養護老人ホームの面会制限により中止が続いていた。特に地域カフェについては再開希望も多く、集いの場の必要性を強く感じ、従来とは異なる方法で感染対策を十分にを行い再開することとした。</p> <p>焼きいもカフェ 三密を回避するため、テーブルの間隔を空け、アクリル板を設置し、屋外にてオープンカフェ形式で開催した。1組20分間と時間を制限し、交代制で参加していただいた。</p> <p>お散歩カフェ ランチをスタート地点とし、随所に工夫を凝らし、オリエンテーリングの要素を取り入れた45分間の散歩コースを散策した。散歩後は、カフェを楽しんでいただいた。食事ブースと談話ブースを分け、喫食時は「黙食」を守っていただいた。感染予防の為、検温、手指消毒、マスクの着用の徹底、事前予約制など制限の多い中での開催となったが、従来通り、カフェには、管理栄養士、看護師、機能訓練士といった専門職が参加し、総合相談や情報提供を行えるような仕組みは継続した。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	新型コロナウイルスの影響で地域の催しが中止になることが多いなか、感染対策を行い、地域のつながりの場を設けることができた。また、ランチ職員と地域住民が関わる機会となり、ランチを知っていただけるきっかけとなった。	
今後の課題	開催において、両者とも季節や天候に左右される。今後は、年間を通して定期的に開催できるよう工夫が必要。 地域住民が主体となる住民参加型のカフェを目指す。 オンラインを活用することで、いきいき百歳体操やシニア料理教室の再開を目指す。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月30日(金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	つどいの場の開催と感染対策との両立は難しいが、多くのつどいの場が休止されるなか、再開活動は良い取り組みである。高齢者が参加できる場所が地域にあることを知ってもらうことは重要である。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称 港南地域総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
活動テーマ	ケースが困難化する前に発見対応が出来る体制の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	世帯が複雑化し課題を多数抱えているケースが増えている (・8050問題 ・親に対する経済的依存 ・同居者が精神疾患を抱えている ・非衛生的な環境) 閉じこもりや地域から孤立している高齢者の見守り体制の構築が必要。 独居で認知症が進行・重度化している高齢者の早期発見と早期対応。	
対象	複合的な課題を抱えている高齢者がいる世帯に対し地域包括支援センター、オレンジチーム、社会福祉協議会、区役所、3師会、ケアマネ・ジャー等専門機関で対応。 地域から孤立(コロナ禍で行く場所がなく自宅に閉じこもっている)している高齢者に対し地域関係者との連携した支援。 認知症が進行、重度化している高齢者に対しオレンジチームや医療機関と連携した支援。	
地域特性	【市 岡】比較的新しい世帯数の多いマンションや戸建ての住宅が多い一方、昔ながらの戸建ても多い。港区の11校下の中では高齢化率は一番低く22.1%である。巨大なファミリー向けのマンションがありその一帯が高齢化率を下げていると思われる。 【田 中】マンション、ワンルームなど集合住宅が多い一方で、昔ながらの戸建てや文化住宅も多い。ワンルームマンションはオートロックの所も多く地域関係者も住んでいる住人を把握出来ていないところもある。高齢化率は27.0%である。(令和2年4月1日時点。港区全体の高齢化率は27.0%であり市岡は港区全体の高齢化率より低く、田中は同じ比率である。)	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・早期発見・早期対応によりケースが困難化する前に支援介入が出来る、地域や専門他機関との関係づくり。 ・地域と繋がりが持てる高齢者を増やし、孤立せず地域で見守りが出来る体制づくりの構築。 	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で開催されているいきいきサロンに参加し、その場での地域関係者との情報交換や相談対応、イベント後の見守り訪問などを行う。また参加高齢者と直接の会話の中での状態の把握や相談対応を行う。ネットワーク委員会の会議に参加し、港南ブランチが認知症、介護サービス、権利擁護など高齢者の総合相談窓口である事の周知と顔の見える関係の構築。その場で支援や見守りが必要と思われる高齢者の情報共有を行い地域関係者からの相談対応を行う。 ・月に一度、港区社会福祉協議会にて開催されている、地域見守りコーディネーター連絡会に参加し、担当圏域内外の地域見守りコーディネーターと連携支援体制の構築と情報交換に努める。(地域の方とのさらなる関係の強化) ・各専門機関や行政、社会福祉協議会、3師会、介護サービス事業所等、関係機関と連携し困難ケースの対応を行う。 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域見守りコーディネーターから相談があった、サービス拒否のある認知症の方に対しオレンジチーム、ケアマネージャー、医療機関、薬局、家族と連携し医療機関への受診や薬剤管理、介護サービスの利用に繋げる。 ・認知症連絡会等、認知症施策を推進する会議や地域見守りコーディネーター連絡会、ネットワーク委員会の会議、その他区役所や社会福祉協議会で行われている会議に参加する事で、行政、専門機関、地域関係等様々な機関とのネットワーク構築になり、世帯が複雑化しているケースへの対応に連携して支援を行う事にも繋がっている。 	

<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の為ポスティングなどこれまでと違った相談窓口の周知活動が必要である。 ・各地域の会館や老人福祉センターなどで行われているサロンや百歳体操など、再開状況を確認した上で参加し、感染防止に注意をした関わりを行う。またコロナ禍の中、長く自宅で過ごされていた事もあり、参加者の方が、認知症状の進行やADLの低下など身体状態が以前と変化していないかを確認した上で、必要な介護サービスやインフォーマルサービスに繋ぐよう支援を行う。 ・困難ケースに対応する為に、引き続き各専門機関や3師会、区役所、社会福祉協議会等の関係機関との連携とネットワーク構築の強化に励む。
<p>以下は、区包括運営協議会事務局にて記入。</p>	
<p>区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和3年7月13日(火)</p>
<p>専門性等の該当</p>	<p> <input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性 </p>
<p>今後の取組み継続に 向けてのコメント (区地域包括支援センター 運営協議会からの意見)</p>	<p>市岡・田中地域のそれぞれの特徴を分析し、地域との連携強化・情報共有に力をいれています。地域住民と連携した相談機関の周知のためのポスティングも行っています。今後も、コロナ禍での地域との連携や専門機関との連携を行い、地域課題に対し深く関わっていくように願います</p>

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 港区築港総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	多職種との連携であらゆる相談を拾い上げる	
地域ケア会議から 見えてきた課題	圏域内は市営住宅や単身者向け賃貸住宅が多く、独居高齢者の占める割合が高い。独居であるためキーパーソンが疎遠や不在で、その場合に介入まで時間がかかることが多かった。また、コロナ禍で地域活動が休止して家に閉じこもることを余儀なくされ、他者との関係が希薄化し、認知症が悪化したといった相談が多かった。相次ぐ活動休止でいきいきサロンや配食弁当などを通じて安否確認を行っていたが、感染を恐れて自宅訪問を断られる方も増えた。さらに家族がコロナ禍で失業やテレワークなど在宅時間が長くなり、家族間の摩擦やストレスから関係が悪化し虐待に発展することもあった。総じて課題が密室化していた。	
対象	圏域内住民	
地域特性	高層を含めた市営住宅が多く高齢化率が30%前後と港区の中でも高い水準にある。ネットワーク委員会、民生委員協議会の活動が活発で地域見守りCOとの繋がりも強い。65歳以上の人口に対する独居の割合 港晴43% 築港41%	
活動目標	地域関係者や専門機関との連携を深め協働して支援する体制を構築する。認知症の疑いや進行が見受けられる高齢者の早期発見、早期対応。	
活動内容 (具体的取組み)	ネットワーク委員会、見守りコーディネーター、民生委員協議会の会議への積極参加。ラジオ体操、いきいき百歳体操、ふれあい喫茶、食事会や各種サロン活動が中止になったため、地域高齢者への個別訪問、ポスティングに切り替えて個別相談、総合相談窓口(ランチ)周知に努めた。退院後の支援や病院受診を円滑に勤めるため、地域医療連携室との情報の共有など連携に心がけた。いわゆる困難ケースに対しては早い段階から地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム等と連携し協働して支援にあたった。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	ネットワーク委員、見守りコーディネーター、民生委員、港区社会福祉協議会見守り相談室、港区くらしのサポートコーナー、消防署等と連携して圏域内の集合住宅の住民に計画的にポスティングを行った。そこから実際に各機関へ相談があった。	
今後の課題	ポスティングは一定の成果があったが、ある程度自分から行動を起こせる方へ向けての取り組みに終わっていた。なかなか声をあげられない方に対するアウトリーチ手法について、感染症対策に取り組みながら考えて実行する。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月13日(火)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性)についてのコメント	独居高齢者が多い地域で喫茶や食事会が中止になる中、活発な地域の活動と連携し訪問やポスティングにより相談窓口の周知を行われ関係機関への相談につながっています。今後も引き続き地域住民との交流を深め、支援を求められない方へのアプローチ方法の検討・実行など関わるよう願います	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 浪速区日本橋総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
活動テーマ	相談窓口の周知・啓発活動の拡充、地域のふれあいの場づくり ～連携と協働の為に体制づくり～	
地域ケア会議から 見えてきた課題	低家賃・単身者向けの住宅が多くあり、生活保護受給者や低年金者、ひとり暮らし高齢世帯の割合が高く、住民同士の交流も少ないため、認知症や病気、困り事に気づいてもらう事が難しく、又、自ら訴える事も少なく、気づいた時には重篤化している事が多い 高齢世帯・ひとり暮らし世帯が多く、地域の関係が希薄化しつつある。	
対象	恵美・新世界 日東 日本橋	
地域特性	日東地域は、市営住宅が多くあり、高齢世帯が多く、地域の繋がりが途切れやすくなっている。 恵美・新世界地域は流入者が生活しやすいワンルームマンションが多く、地域とのつながりが希薄な為、生活状況の情報収集が難しい。 日本橋地域は、高齢世帯・ひとり暮らし世帯が多く、地域の繋がりが希薄化しつつある。	
活動目標	1.高齢者に関係する機関へ、総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)の周知を図るため、定期的な訪問やチラシの配布を行う 2.地域福祉サポーターと高齢世帯やひとり暮らし世帯の見守り訪問をする事で問題の早期発見・早期介入につなげる 3.地域福祉サポーターとふれあいの場づくりの提案をする	
活動内容 (具体的取組み)	恵美・新世界地域の地域福祉サポーターと共にひとり暮らし高齢者、認知症高齢者の多く住むマンションやアパートの管理人、地域関係者を定期的に訪問し、ランチの周知を図る 高齢者に関係する場所への訪問として、タバコ屋、喫茶店、酒屋等高齢者がよく行く場所へのチラシ配布やランチの啓発を行う ふれあいの場づくりとして、新世界地域では月に1回、百歳体操の後に認知症や介護予防の啓発を実施し、その他の地域へも広めていく	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	1,2.については、地域関係者や地域福祉サポーターから継続して相談がある(R2年度上期:79件、下期84件) 2.については定期的な訪問活動を継続して行う事で、困り事がでる前に支援する事が出来た(特別定額給付金の手続き等) 3.については、コロナ感染症拡大防止の為地域の活動が自粛されており、ふれあいの場づくりは、新世界地域以外では開催できなかった(新世界地域では7回開催した)	
今後の課題	支援が必要となる前の段階の人へのランチの周知 恵美・新世界地域以外の地域の関係者等へのランチの周知が出来ておらず、日東・日本橋地域の高齢者に関係する場所や管理人等への訪問・啓発活動	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月12日(月)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	地域とつながりのもてない孤立した独居高齢者が多いことを感じている。 総合相談件数が減っているものの、地域の民生委員、町会役員からの相談、通報が増えていることは、当人が発信しづらい環境があるともとれる。 コロナの影響が今も続き、長引いていることから、外出自粛を余儀なくされる高齢者を見守るネットワークはさらに重要。 地域性、継続性で評価し、公表する。	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 生野区大池地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input checked="" type="checkbox"/> その他 複合的な課題がある世帯の支援
活動テーマ	複合的な課題をかかえる世帯の早期発見・対応
地域ケア会議から 見えてきた課題	経済的に困窮している(保護世帯であるが、お金の管理が出来ていない)だけでなく、複合的な課題のある世帯への支援について。同居の息子は障がい者であるが、母親が息子の年金を担保にお金を借りるなど課題が多い。状況が複雑になってからだと、対応も困難であるため、早期に発見し対応できるようにしたい。
対象	地域住民、地域の高齢者。
地域特性	昔ながらの木造住宅が密集しているエリアがあり、長年住んでおられる方が多い。家内工業(履物等)が現存する地域であり、高齢化が進んでいる。
活動目標	・地域行事の開催時に相談窓口としてのランチの周知活動を行う。 ・地域の方々との「顔の見える関係」を広げていく。
活動内容 (具体的取組み)	・熱中症予防見守り訪問を町会の役員、区社会福祉協議会、鶴橋地域包括支援センターと協力して実施した。同時に相談窓口としての総合相談窓口(ランチ)の役割周知を行った。 ・昨年度に引き続き、町会未加入マンションへのポスティング(相談案内のチラシ配布)を鶴橋地域包括支援センターと共同で行った。 ・地域の状況把握の為、町会が実施しているお弁当の配食に同行させて頂いたり、百才体操に参加することで顔の見える関係づくりを行った。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・熱中症訪問を行った世帯から相談があり、地域の女性部長からも相談を頂くことができた。 ・新たに始まった百歳体操へ参加することで、顔の見える関係を広げることができた。また、体操の参加者複数名より相談があった。
今後の課題	早期発見・早期対応を意識しつつも、思うような活動が出来たとは言えない。複合的な課題がある世帯について地域から相談を頂き、鶴橋包括、区役所と連携をとって対応できたケースがあったので、今後も地域からの相談を頂けるよう地域とのネットワーク構築に努めていきたい。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月14日(水)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	熱中症訪問を行うことで、地域の役員から相談が増えたり、訪問した高齢者から相談されるようになり、ランチの認知度が上がっている。 また、配食サービス・百歳体操に参加することにより、地域の状況把握ができ、連携も深めている。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 生野区生野東総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の実態把握とランチの周知活動をおこなう。 ・認知症予防の取り組みや、認知症当事者と家族に対する支援の推進。 	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> ・独居認知症高齢者支援には、地域との連携やネットワークが必要。 ・地域の課題を把握する為には、地域関係者と連携を図ることが重要。 	
対象	圏域内の高齢者やその家族、地域関係者やボランティア、地域住民、その他関係機関など	
地域特性	生野区内でも特に高齢化率が高い地域。文化住宅や商店街、銭湯など昔ながらの街並みが残っている。その一方、新たな住宅も混在。活動や行事等は盛んで、隣近所の交流も残っている。	
活動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センター(以下、「包括」という)・総合相談窓口(ランチ)(以下、「ランチ」という)の機能の周知および情報提供をおこない、相談や支援が必要な高齢者の早期発見・早期対応をおこなう。 ・地域住民との連携を重視し、より良い関係性を構築する。 	
活動内容 (具体的取組み)	<p>林寺地域での町会戸別訪問の実施 地域関係者や福祉コーディネーターより、戸別訪問を実施したいという声があり。林寺地域では初の試みで、包括・ランチ他関係機関と協働し、独居高齢者150世帯を対象とした戸別訪問を実施。</p> <p>認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 当事者やその家族、地域住民などの参加があり。認知症関連の講習や予防の為に脳トレ、運動などの内容を組み込み開催した。コロナ感染症流行の為に、中止せざるを得ない月が生じたが、参加者宅訪問へ活動を変更した。</p> <p>生野東ランチだより「つなごう」の活用(別紙参照) 当ランチの周知・広報を目的とした広報誌を発行。新たに興味を持っていただく事を狙いとし、全面的にリニューアルした。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>林寺地域 町会戸別訪問の実施 民生委員ほか地域関係者と訪問する事で、地域の実態把握ができた。その結果をフィードバックし、情報共有した。同時に包括・ランチを有効的に周知する事ができ、相談に繋がっている。</p> <p>認知症カフェ「オレンジカフェつなごう」の開催 開催時には感染症予防対策を講じ、中止月は参加者宅を訪問し、フレイル予防の為にトレーニングブックや脳トレブックを作成・配布、同時に状況確認や相談を行った。これまでと違った視点で物事を見る事ができ、より関係を深める事ができた。</p> <p>生野東ランチだより「つなごう」を活用した周知活動 昨年度に比べて配布機会は少なかったが、圏域内の老人憩いの家や医院、薬局などへ配架し、多数の方の目に触れる機会を増やす事ができた。</p>	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者や民生委員等との関係を深め、地域の実態把握に努める。 ・要時には迅速・柔軟に対応できるよう連携を図る。 ・引き続き、総合相談窓口の周知・啓発活動を行う 	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月14日(水)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	<p>独居高齢者の訪問を地域関係者や福祉コーディネーターと協働して行い、地域の実態把握はもとより、地域と連携強化に務めた。ランチだよりの配布をすることで、ランチの周知になり相談に繋がっている。認知症カフェでは、コロナ禍で中止の時は訪問してフレイル予防の為にトレーニングブックや脳トレブックを配布している。</p>	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 生野区田島地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	認知症になっても住み続けられる地域に向けて、 早期発見、早期相談のできる関係づくり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	○認知症に関連したケースが多い。認知症があっても地域で見守られながら暮らすことができるようになるためには、早く気付いて、相談や支援につながる事が重要になる。地域に対して、認知症への理解が進むように働きかけること。 ○地域の方が相談支援機関をうまく活用できるように、積極的に包括・ランチの周知・啓発を行い、相談のしやすい関係づくりを継続して行うこと。	
対象	地域住民	
地域特性	○65歳以上の高齢者数3754人、高齢化率35.9%、外国籍(特に韓国・朝鮮籍)の方が多い。 ○田島地域は、古いまちなみが残る地域で、メガネレンズ産業が盛んで現在も家内工業が多数存在する。	
活動目標	○相談窓口(ランチ)のを知ってもらう ○認知症やその他気になることやお困りごとを気軽に相談できる場所の提供 ○コロナ禍でも安全に集まれる場所の提供	
活動内容 (具体的取組み)	○新型コロナウイルスの影響を受け、やすらぎ苑内で実施していた認知症カフェの開催が難しくなったが、継続して認知症カフェによる啓発活動を行うため、以下の方法で実施した。 出張版やすらぎカフェ(5.6.7.9.10.12.1月) 常連で来られていた方15名へ 認知症カフェの案内・ぶらんちだより・脳トレ等のポスティング・声掛け 田島会館にて認知症カフェの開催(11月17日) ぬりえ・脳トレの提供、お持ち帰り用のおやつと飲み物のみ提供 グループホーム入所者にお持ち帰り用のおやつの準備をお手伝いいただいた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	出張版やすらぎカフェでは、コロナウイルス感染が少し落ち着いた時期には、対面でのお渡しを行ったことで、外出機会や交流機会が減り、体力的にも精神的にも落ち込んでいることや、別の楽しみを見つけたことなど、生活の状況を聞き取ることができ、交流の場が高齢者にとって重要なものであることが改めて実感できた。 田島会館での開催では32名の方が参加され、「施設(やすらぎ苑)でやっていたときは少し行きづらい気もしたけど、こんな感じなら行ってみたい」という感想をいただき、認知症カフェのこと、ランチのことをより広く知っていただけたきっかけになった。	
今後の課題	○コロナ禍のような制限がある中でも、相談しやすい関係のままつながり続けられるように工夫の必要性を感じた。人を集めるイベントに注力するだけでなく、オンライン等の活用や、地域の役員や民生委員を含め、個々への周知を継続していくこと。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月14日(水)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	コロナ禍により認知症カフェを開催出来なかったため、ランチだより・脳トレ等のポスティングを実施。地域の会館で実施することにより、ランチの周知に繋がった。

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 **生野区新生野地域総合相談窓口(ランチ)**

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()
活動テーマ	相談内容件数が多い認知症への取り組み。 高齢者への認知症予防対策。 地域住民(若い夫婦世代・児童含む)に対する、認知症啓発
地域ケア会議から 見えてきた課題	独居認知症高齢者への、周辺住民の認知症に対する理解不足。 地域役員含む周辺住民への啓発が必要。
対象	地域在住高齢者及び住民・地域振興会・民生委員
地域特性	文化住宅や長屋がなくなり建売やマンションなどが増え、町並みが変化してきている。若い世代の流入による、児童が増加傾向にある。 マンションなどの居住者は町会に加入しない事が多く地域の見守りや情報提供が難しくなっている。
活動目標	高齢者から子供に至るまで、全ての世代への「認知症」啓発
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介を兼ねた総合相談窓口(ランチ)(以下、「ランチ」という)啓発チラシポスティング ・地域行事への参加(にこにこ教室・はーとちゃん教室) <li style="padding-left: 20px;">ランチの啓発、認知症予防や虐待・詐欺対策などの情報提供実施。 ・異東連合との連携強化 ・異地域包括支援センターとの連携強化 ・まちづくりセンタースタッフや社協福祉コーディネーター、見守り相談室スタッフを巻き込んだ地域での段ボール等の資源回収の協力 ・地域行事参加者宅への複数回の戸別訪問 ・町会未加入のマンションなどへの認知症予防及び総合相談窓口啓発 ・ランチ広報「ゆったり通信」を制作し相談窓口情報を発信
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> ・相談件数:前年対比170% ・異地域包括支援センターとの関わり件数:前年対比432% ・異東会館での滞在時間:平均2時間/日 捻出 ・100歳体操及び地域行事の新規参加者の増加。 ・戸別訪問回数:前年対比316% ・チラシによる町会未加入者からの問い合わせ:5件 ・家族介護教室:実施できず。 代替として、介護予防冊子等を戸別訪問での配布
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症への理解を深め早期発見、早期対応や地域で見守れる街づくり。 ・若年世帯(別居世帯)への認知症早期発見、相談窓口の情報提供。 ・コロナ渦での活動内容。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月14日(水)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	住民への認知症啓発やランチの周知の取り組みを強化している。また、地域の役員にランチを周知するために、地域行事に積極的に参加することにより、連携強化、住民への周知にも繋がっている。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 生野区新興地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	様々な世代の地域住民の方々にランチの機能、役割を知っていただけるように周知活動に努め、顔の見える関係づくりを構築し、何かあれば気軽に相談してもらえるような身近な存在になる。	
地域ケア会議から 見えてきた課題	治療方法もなく余命宣言を受けた、身寄りも重度の知的障がいグループホームに入居している子どもだけしかいない方、愛犬がいるために入院も出来ないという本人を本人の希望などを踏まえ行政、民生児童委員、地域包括支援センター(以下、「包括」という)、ケアマネジャー、総合相談窓口(ランチ)(以下、「ランチ」という)が主治医の意見を踏まえてどのように支援をしていくかを話し合う。家族全体に問題があり、つながる場の会議に参加する。地域の中にも高齢者だけではなく支援が必要な方が沢山おられると思う。そんな方たちの掘り起こしと、その方が住み慣れた地域で尊厳ある、その人らしい生活が継続できる様、関係機関と連携し多職種協働による高齢者支援のネットワークづくりが必要であると考えます。	
対象	異南在住の高齢者、その家族、地域住民、民生児童委員、地域関係者やボランティア、各関係機関	
地域特性	明治22年に大地、四条、伊賀ヶ、矢柄、西足代の5村落が合併したことで、「異村」になった。昔からの家も多く、地の人たちの村意識が強い その反面、マンションや戸建てが増え、若い人の定住が増えた。ワンルームマンションも増え、町会に加入しない独居高齢者が他地域から移住されてくる方も増えており、顔の見える関係性が薄くなっている。町会内には、スーパーもなく、コンビニエンスストアも一軒しかない。地下鉄やバスは通っているが、バスは1時間に1本しか走っておらず、役所に行くにも乗り換えてなければならない。	
活動目標	包括、ランチの周知活動を行い、困りごとを気軽に相談していただける顔の見える関係づくりを構築する。行政、在宅医療・介護連携相談支援室、認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)、見守り相談室、包括、地域福祉コーディネーター、と連携し課題の早期解決に努める。	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> ・異南食事サービスは、地域福祉コーディネーターとランチで配食弁当を配達し、脳トレの冊子を配りながらコロナ禍での高齢者の用紙を伺いに訪問したり、いきいき教室へ参加し、包括、ランチからの啓発活動を行った。 ・100歳体操、体力測定の手伝い。・異南朝市2回、サンタ大作戦(町会に加入されている80歳以上の独居高齢者宅に訪問し、プレゼントと「まずは相談」のパンフレットとマグネット式の相談はここにという区社協、包括、ランチ、地域福祉コーディネーターの連絡先を記載したものをお渡りする。) ・家族介護者教室 2020年10月22日(木)「中村 美優昭和歌謡ショー」コロナ禍の中でも出来ることを思案し、屋外でソーシャルディスタンスを保って感染予防を徹底して開催する。 ・在宅認知症、在宅高齢者支援NW会議、生野こうつう会議、ランチ連絡会参加 	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	コロナ禍でも出来ることをと地域の行事に企画から参加させていただいて、新興ランチの存在を多くの地域住民に周知していただけるようになった。 おかちやまオレンジチームと協働し、認知症の方の認知症専門医の診断、治療に繋がったり、医療機関とも連携し、成年後見制度の説明や安心サポート事業に繋げるようにした。	
今後の課題	町会に加入してる、何かお困りごとがあれば、いつでも声をかけていただけるよう話すことは出来たが、町会に未加入の方や、地域行事に参加されていない方たちの実態把握がなかなか出来ていないので、各町会長、民生委員、地域関係者と連携を深め更なる地域の実態把握に努めなければいけないと感じている。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和3年7月14日(水)

専門性等の該当
(該当個数は問わない)

地域性 継続性 浸透性
(拡張性) 専門性 独自性

評価できる項目(特性)
についてのコメント

配食サービスや百歳体操や巽南朝市、サンタ大作戦など地域の役員と協働で多種多様な地域行事を企画の段階から参加している。また、各行事でランチの周知に努めており、地域の役員はもとより、地域住民からもランチへの期待も大きい。

*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 **阿倍野区昭和地域総合相談窓口(ランチ)**

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()
活動テーマ	コロナ禍における早期発見・早期対応に向けた地域支援について
地域ケア会議から 見えてきた課題	・経済的課題を抱えたケースが重篤化してから表面化し、支援介入が遅れてしまう。 ・地域住民に対し、認知症(精神疾患含む)についての正しい理解(早期発見・早期対応)について、更なる周知が必要。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、外出を自粛する高齢者が多く、身体機能の低下や認知症の進行等のリスクが高まっている。
対象	地域住民、地域の支援関係者、各支援機関
地域特性	南北に長い地域で、北部は新しいマンションが多く、中部は古くからの住宅、南部は単身者向けのマンションや文化住宅が多い。地域によって経済格差が多い。南北には地下鉄の駅が2つあり、JRの駅が地域の南東端に位置しているが、駅まで徒歩で移動できない高齢者が多く、公共交通機関の利便性が確保されていない。
活動目標	支援関係機関との連携の強化、顔の見える関係作りの構築 認知症(精神疾患含む)についての正しい理解と、誰もが安心して暮らせるまちづくりに向けた取り組み 地域向けに生活や健康等の幅広い情報の発信、総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)の周知の強化
活動内容 (具体的取組み)	・小地域ケア会議(チーム長池)を定期的開催し、地域関係者と各支援機関で、個別ケースや地域課題等の情報共有と対応に向けた検討を行ない、連携の強化を図った。 ・地域住民に対し、長池地域福祉講演会(認知症講演会)を開催し、幅広い世代の方に認知症を支える側、支えられる側になっても安心して暮らせる街づくりを目指し、認知症の正しい理解を深めていただき、また各相談窓口について学んでいただいた。 ・外出を自粛する高齢者に対し、地域福祉コーディネーターと個別訪問を通じて安否確認やフレイル・新型コロナウイルス感染症予防等の情報提供を行ない、ランチの周知にも繋げた。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・地域関係者や各支援機関との強化を行ってきたが、ランチが関わった時点で経済的課題が重篤化しているケースがまだまだ見られ、他機関との連携が不足している。 ・コロナ禍にも関わらず、長池地域福祉講演会には多くの地域住民が参加され、認知症に対する正しい理解や区内の社会資源(相談窓口)について学んでいただいた。 ・個別訪問により、必要なタイミングで介護サービスに繋がったケースもあり、新規相談件数も昨年度より増えており、活動による一定の効果はあったと思われる。
今後の課題	・未だに表面化されていない様々な課題を持つケースが多く存在し、重篤化を防ぐ為にも、より一層の支援関係機関との連携の強化が必要。 ・認知症については、引き続き幅広い世代に向けて、認知症の理解を深め、支える側支えられる側になっても安心して暮らせる街作りに向けた継続的な取り組みが必要。 ・コロナ禍における早期発見・早期対応に向けて、今後も個別訪問や回覧板等を活用し、状況確認と幅広い情報の発信、ランチの周知が必要。

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月30日(金)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	・タイプ別サービスの説明会の実施や、タイムリーな情報の発信等、地域住民と協力し、取り組みを実施できている。 ・難しい事例に対しても、きめ細やかに区地域包括支援センターやランチと連携し、対応することができている。 ・リモートで認知症講演会を実施するなど今の時代に即した柔軟な活動にも率先して対応している。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 住之江区加賀屋地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	集合住宅における地域診断	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<ul style="list-style-type: none"> 一人暮らしの高齢者が増え見守り体制が必要 集合住宅では住民同士のつながりが希薄し、問題が潜在化してしまう傾向にある 早期発見、介入の支援体制が必要 	
対象	地域関係者(町会、民生委員、あったかネットコーディネーター)・社会福祉協議会 ・地域包括支援センター(以下、「包括」という)・総合相談窓口(ランチ)(以下、「ランチ」という)	
地域特性	古くからの長屋も多く、隣近所の声かけができていところがある一方、集合住宅においては、近隣のつながりが希薄している。一人暮らしの高齢者が増えている。	
活動目標	孤立させない地域づくり	
活動内容 (具体的取組み)	<ul style="list-style-type: none"> 集合住宅への戸別訪問 集合住宅では住民同士のつながりが希薄してしまう傾向にあり、課題が潜在してしまう等の課題があげられている。前年度は戸別訪問を実施し、近隣同士のつながりや情報発信の必要性を多くの人を感じていることがわかった。新たな地域活動の立ち上げや戸別訪問の継続を予定していたが感染症の影響のため保留。会うことができなくても情報発信できるようにチラシ等を作成している。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<ul style="list-style-type: none"> 戸別訪問を実施することで課題を把握することができた。 町会や集合住宅管理会社と協働で取り組むことで、総合相談での情報共有もできるようになった。 	
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 集合住宅における地域診断は一つの町会をモデル地域として実施していたが、他の地域でも実施していく。 地域の見守り体制構築と共に包括やランチ等相談窓口としての周知を行い、早期発見、介入につなげていく。 	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	ピンポイントでモデル地域をつくり、地域診断をするという発想が独自性の評価ができる。小さい地域を、地域ぐるみで考えてやっていくという活動が素晴らしいと思う。 独自性の評価	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称 住之江区新北島地域総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> その他()	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等) <input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
活動テーマ	かなえる体操・ふれあいサロン	
地域ケア会議から 見えてきた課題	集合住宅が多く、高齢化が進み独居高齢者も多い。地域との関わりが薄く、地域からの孤立が課題となっている。	
対象	地域住民	
地域特性	新北島地域、平林地域共に市営住宅やUR都市機構などの集合住宅が占めている地域で、独居高齢者や夫婦高齢者世帯の割合も多い。地域とのかかわりが薄く、閉じこもりがちの高齢者が増え社会参加の機会が少ない。	
活動目標	理学療法士による体操教室の実施。 定期的な体力測定を行い、結果を可視化する事で意欲の向上を図る。	
活動内容 (具体的取組み)	<新北島地域> 日時: 毎月第2火曜日 14:00~15:00 場所: 市営新北島第1集会所 内容: 訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室 <平林地域> 日時: 毎月第4火曜日 14:00から15:00 内容: 訪問看護ステーションの理学療法士による体操教室	
成果 (根拠となる資料等が あれば添付すること)	新北島・平林地域共に理学療法士に協力いただき体操教室を実施している。 <年間の実施> 新北島地域: 7回 平林地域: 8回 コロナウイルスによる外出自粛要請により、かなえる体操・ふれあいサロンの開催は2/3の開催になっている。中止の際は、包括と分担して電話による状況把握を行い、その後脳トレの資料を作成し、戸別訪問して自宅でできる体操の声掛けを行った。外出自粛解除後は電話による再開の連絡を行った。参加者も再開を待ち望んでおられ、両地域ともに平均して12名以上の参加がある。多い時で21名参加があった。男性の参加者も増えつつある。	
今後の課題	徐々にであるが新規の参加者も増えつつあるので、引き続き新たな参加者を募り声掛けしていく。ワクチン接種が進み感染症が終息するまでは、時間を要すかもしれないが、高齢者のストレス解消や運動不足によるフレイル予防などこれからの課題である。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	地域の高齢者が「今日体操に行ったか?」「あそこでやっている」等の声があり、地域の中で浸透してきている活動と実感するため、浸透性の評価ができる。 *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 住之江区新北島地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他 ()	
活動テーマ	地域めぐり	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域と関係機関での情報共有や、それぞれがどのように連携し支援して行くのか、高齢者の見守り体制の構築と早期発見・早期対応につながるために地域の見守り体制作りが課題となっている。	
対象	医院・クリニック・薬局・郵便局・コンビニエンスストア	
地域特性	新北島地域ではクリニックや金融機関・飲食店スーパーなどがあり利便性はある。平林地域の南港東地域は、市営住宅、UR都市機構などの集合住宅が占めており、スーパー・クリニックが各1箇所しかない。移動手段であるニュートラムを利用するにも難しい高齢者も多い。又、空車タクシーはほとんど走っておらず待機車もなく、呼んでもなかなか来てくれない。	
活動目標	高齢者がよく利用する機関を回り、身近な相談窓口としての総合相談窓口(ランチ)の周知活動を行う。地域や専門機関との関係づくりができ、気になる高齢者の早期発見・早期対応に繋げる。	
活動内容 (具体的取組み)	コロナによる自粛期間を除いて平林地域は毎年訪問している機関への地域めぐりを実施。 新北島地域は医院・クリニック、歯科、薬局、コンビニエンスストアなどを回り、地域での見守りや認知症への理解と相談窓口の周知活動を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	活動件数：20か所 継続して取り組んでいる活動であり、パンフレットやポスターを設置してくれている機関も増えてきている。新しいポスターへの貼り替えやパンフレットへ交換を行い、顔の見える関係づくりができた。	
今後の課題	今後も地域とのつながりを意識し活動を進めて、顔の見える関係づくり関係づくりを行っていく。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント *今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	包括と一緒に取り組んでいる内容。地道な活動の継続により、周囲に理解が広まってきているという点では、浸透性、継続性の評価ができる。商店街や他機関との連携も地域性の評価ができる。	

総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称

住之江区新北島総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	地域交流会	
地域ケア会議から 見えてきた課題	地域関係者やケアマネジャーがお互いに顔が見えず支援しており、それぞれの活動や役割が把握できていない。関係機関同士がどのように連携し、見守りして行くのかが課題となっている。	
対象	地域関係者(民生委員、ネットワーク委員) ケアマネジャー	
地域特性	平林地域では、喫茶を含む地域活動が活発で、ネットワーク委員やボランティアによる友愛訪問活動などにより、地域から孤立している住民の早期発見に努める等、近隣同士による助け合いの意識も高い。	
活動目標	地域支援者と介護事業所が顔の見える関係になり、地域課題を共有する事で、協働して課題を解決できるようにする。	
活動内容 (具体的取組み)	民生委員、ネットワーク推進員、地域のケアマネジャーを対象とした情報交換会	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	コロナ禍で活動が実施できていない。	
今後の課題	今後の動向を見ながら、開催方法の工夫などを検討していく必要がある。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	<p>コロナ禍で活動が実施できていないということであるが、小規模での交流は開催し、過去からコツコツと継続した取り組みであることと、今後も継続していくという点への期待も含め、継続性として評価できる。</p> <p>*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見</p>	

総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称 住之江区南港北総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等 <input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援 <input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()
活動テーマ	多職種連携を目指したアプローチ
地域ケア会議から 見えてきた課題	複合的な課題を抱えたケースの支援を行う中で、支援機関によっては期間や対象者が制限される事があり、一つの機関だけではマンパワー不足に陥る可能性が高いと考えられる為、各機関と連携を強化していく必要がある。
対象	複合的な課題を抱えた高齢者世帯
地域特性	高齢化が進む中、地域との交流が盛んな世帯と交流が希薄な世帯の二極化が顕著となっており、複合的な課題を抱えた世帯の情報収集が難しい。
活動目標	チームアプローチを行い多職種との連携を強化する。
活動内容 (具体的取組み)	・複合的課題を抱えた世帯に対して、行政、地域包括支援センター、認知症初期集中支援チーム(以下、「オレンジチーム」という)、総合相談窓口(ブランチ)(以下、「ブランチ」という)、訪問看護事業所、精神科クリニック相談員等と協力してアプローチを行った。 ・支援者間で定期的なモニタリングを実施し、新たな課題が発生した時は地域ケア会議を活用して各職種の役割分担を明確にした。
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	職種を超えた連携を維持したことで、包括やオレンジチーム、ブランチの支援が終了した後も、残された家族の支援を障がい分野のPSWや精神科訪問看護師が引き続き行う等、支援が途切れることなく継続したアプローチが実践でき、新たなネットワーク構築にも繋がった。
今後の課題	・複合的な課題を抱えた世帯の情報収集が難しい為、地域関係者と定期的な情報交換を行うと共に積極的なアウトリーチを実施する。 ・多職種でケースの共有機会を多く設ける事が重要であり、定期的に大人数が集まる事が出来ない状況下においては、ITを活用した連携強化が求められる。
以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	地域のニーズを把握できていなければできない事であるため、地域性は評価したい。チームアプローチによる取り組みである点で専門性の評価、今後も、多職種での関係性を意識して連携していくという点に期待も含め、独自性も評価できる。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 住之江区南港北総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	出前相談・周知活動	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・地域力を向上する為に、地域活動に意欲的な地域住民の力を活用する取り組みが必要である。 ・認知症の啓発や相談窓口の周知を継続して行い、地域と良好な関係を維持していく事が求められる。	
対象	地域の高齢者、地域関係者(民生委員、ネットワーク推進員)、地域の社会資源(商店や薬局、マンション管理事務所)	
地域特性	住民同士の仲が良く、交流が盛んな地域であり、地域に密着した商店や薬局が多く顔馴染みで利用する高齢者もいる。地域で見守りを行う等の協力的な住民が多い。	
活動目標	・地域行事へ積極的に参加し、気軽に相談出来る関係作りを行う。 ・地域住民に認知症への理解を深めてもらい、共助の町づくりを目指していく。	
活動内容 (具体的取組み)	<出前相談・周知活動> ・各地域の百歳体操や脳トレサロン、介護予防教室へ参加して出前相談を行った。 ・担当地域の商店や薬局、団地の管理事務所へ総合相談窓口(ランチ)の周知活動を行った。 ・令和2年10月21日 あったかネットサポーター養成研修参加。 <地域包括支援センターとの協働活動> ・令和2年9月12日 認知症サポーター養成講座 南港北中学校 ・令和2年10月13・27日、11月10日 介護予防大学プレ開講 ・令和2年10月3日 URひかりの団地集会所お披露目会(ふまねっと運動・寸劇) ・令和3年3月23日 認知症サポーター養成講座 花の町福祉会館	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・出前相談については、新型コロナウイルスの影響で地域行事の減少や参加人数の制限、外出自粛により例年通りの活動が難しかったが、地域行事が開催されていない期間においても、各地域のネットワーク推進員と連携して地域の情報交換を定期的に行ったり、気になるケースは個別訪問を行う等、自粛期間で出来る取り組みに努めた。 ・社会資源へ周知活動を継続する事で相談人数及び相談件数が増加した。 ・地域包括支援センターや認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)との協働活動では、認知症や介護予防の取り組みとして認知症サポーター養成講座、認知症関連の寸劇、介護予防大学の発足に向けた活動を行い、地域の住民や中学生、あったかネットサポーターへ認知症の症状や事例と各相談窓口について周知する事ができた。	
今後の課題	ITの積極的な活用や感染対策を徹底する等の工夫と参加者が安心して地域の行事やイベントに参加できるような環境整備が必要。又、総合的な地域力向上を目指して継続した啓発・周知活動を行う事も重要である。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月15日(木)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	継続して実施している点で継続性の評価と、地域の推進員と連携し、個々の関係性の評価につとめてきた点で地域性に評価。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 東住吉区矢田西総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	課題を抱える高齢者を含む世帯との顔の見える関係性の構築	
地域ケア会議から 見えてきた課題	課題を抱えながらも外からその存在の見つけにくい高齢者の把握	
対象	矢田西地域の一人暮らし高齢者世帯、老々世帯	
地域特性	地域の住宅には築50年相当を越える木造集合家屋が点在している。建物の老朽化と住人の高齢化が共に進んでいる傾向が認められる。市営住宅も一部新しく建て替えられ住人はそのまま移り住まれ高齢化が認められる。対照的に現代的な家屋の増加もあり、新しいファミリーが増え就学児童が増えている。	
活動目標	アウトリーチ訪問を月10件以上	
活動内容 (具体的取組み)	これまでに相談支援が集結しており、関わりの途切れている過年度の被相談者の名簿を作成、過年度被相談者の居住実態の有無の確認から始め、居住実態の認められるお宅へのパンフレット・リーフレット配布から関わり始め、さらにここから直接対話の機会につなげて行く。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	アウトリーチ訪問のための移動中、風雨が強いなかで知合うことができた帰宅途中の高齢者の方が、過年度の被相談者の方であった。その方が改めて被相談者となったとき、初対面ではなく二回目の対面となり、話がしやすかった。アウトリーチ訪問の地域巡回を重ねることで、住まい老朽化度合いと高齢者世帯との関係がぼんやりながら見えてきている。高齢者は、老朽化した家屋に居住しているとの印象がある。	
今後の課題	令和2年10月以来、公園南矢田1丁目は、複数の訪問ができたが、公園南矢田2丁目～4丁目へのリーフレットやパンフレットの配布は出来ていない。訪問から次の訪問までの期間がどれぐらいなるか、全体への配布期間をどこまで短縮できるかについて、公園南矢田1丁目～4丁目のすべてを対象とし測定する。総合相談窓口(ランチ)周知力を高める。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月26日(月)
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input type="checkbox"/> 継続性 <input type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性
評価できる項目(特性) についてのコメント	日頃の活動の中で地域住民の高齢化の状況を細かく把握・分析し、積極的に周知活動が続けるなど地域性、独自性に該当する。今後も地域にあった周知活動と、丁寧な相談活動が続けていただきたい。
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見	

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称

西成区山王総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	地域住民が主体的に参加できる活動を通じて総合相談窓口の周知を図る	
地域ケア会議から 見えてきた課題	「ひとり暮らし」「認知症状」「複合的な課題を抱えた世帯」 金銭管理・負債等の経済・生活問題における支援や対応が多くみられた。	
対象	地域住民(主にひとり暮らしの高齢者、認知症状またはその疑いがある高齢者)	
地域特性	昔ながらの建物・風景や長年居住されている住民同士の近所付き合いも残っている。その一方で集合住宅に住む単身高齢者世帯も多く、生活保護受給率も高い。身寄りがなく、繋がりが希薄な住民もみられる。	
活動目標	山王総合相談窓口(ランチ)(以下「ランチ」という)が、気軽に相談できる身近な窓口として「地域に根ざした居場所の一端を担う拠点」であること。	
活動内容 (具体的取組み)	<p>毎月1回みどり苑地域清掃を実施。2名のボランティア、そして認知症状がある高齢者にも声かけし、ご本人のタイミングと一致したときは一緒に清掃に取り組んでいただいた。</p> <p>コロナ禍により居場所への参加機会が失われ、孤独・閉じこもりの不安が増大された単身高齢者の方と役割・ニーズを共に検討した。</p> <p>認知症初期集中支援チーム(オレンジチーム)(以下、「オレンジチーム」という)や東部地域包括支援センター(以下、「包括」という)と地域の郵便局や銭湯などへ周知活動を行い広報へ繋げた。その後、10月にみどり苑ふれあい喫茶と同時開催でオレンジチームによるお話を企画。延期となり、山王地域活動協議会の協力のもと、2月に山王集会所百歳体操の参加者にオレンジチームから「認知症と物忘れについて」、東部地域包括支援センターから新型コロナウイルス感染症の感染防止についてのお話をいただいた。</p> <p>ランチのことをより知ってもらうために、広報誌「～ランチの風～くらしや介護の相談窓口だより」を発行。</p>	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	<p>みどり苑地域清掃は定例行事となり、参加者自ら積極的に取り組まれている。清掃活動中に地域住民とのあいさつや声かけもあり、認知度も拡がりつつある。</p> <p>ボランティアとして、みどり苑フロアの消毒を提案。毎日の日課があることでいきいき過ごされている。その後、自主的に手作り作品を持参され、施設内に展示することで新たな作品づくりの意欲につながっている。(他にも数名の方が作品を持参されている)</p> <p>オレンジチームや東部包括とお話会では、参加者が興味深く聴いておられた。終了後に質問も寄せられた。</p> <p>ランチ広報誌の取材で地域の役員やボランティア等様々な方へ話を伺い、その想いを聴くことができた。山王・飛田地域の催しや取組み、くらしの情報などを伝える媒体として地域住民に配布し活用している。</p>	
今後の課題	民生委員や町会役員等との参加機会を増やし、ランチと顔の見えるパイプを形成していきたい。ネットワーク構築による地域へのアウトリーチ、取組みに様々な関係機関と協力を図る。ランチの周知を工夫して、具体的にわかりやすく伝わるよう試みる。今後も広報誌を発行することで地域の対象者や拠点の声を取り上げ、拡げていきたい。	
以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月9日(金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input checked="" type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	<p>コロナ禍で孤独・閉じこもりの不安を持つ単身高齢者のニーズを把握し役割を持ってもらうことで、ボランティアに参加した高齢者が生きがいを持ち、また自主的に持参した手作り作品を展示することで新たな作品作りへの意欲にもつながっている。</p> <p>オレンジチーム、包括と連携し、地域活動協議会の協力ももらいながら、地域で認知症と感染症について講話したことは評価できる。また、郵便局や銭湯などへ周知活動をしたことで、さらなる地域の身近な相談窓口として認識されることを期待します。</p>	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 西成区成南地域総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	地域高齢者の居場所作り	
地域ケア会議から 見えてきた課題	<p>ひとり暮らしの高齢者の居場所がない 認知症のため、外出が困難になった高齢者が多い ひとり暮らしの男性高齢者のほとんどが、地域との関りが少ない 固定電話及び携帯電話を持っている人が少ない 生活保護受給者が多い 生活保護費に近い年金の人が多いため、必要な支援サービスが利用できない 時間に制約されることを嫌う人が多いため、支援を拒否する人が多い 定期的な医療受診がなく、かかりつけ医がいない。</p>	
対象	千本地域のひとり暮らし及び認知症高齢者	
地域特性	<p>ひとり暮らしの高齢者が多く、特にひとり暮らしの男性高齢者が多い 文化住宅が多く、2階に住んでいる高齢者が多い 家族がなく、親戚など身寄りがない高齢者が多い 外食やコンビニ弁当で食事を済ませている高齢者が多い 銭湯を利用している高齢者が多い 80歳近くになっても、自転車で移動している高齢者が多い 古くから住んでいる住民は仲間内だけで話すため、新しい住民は孤立</p>	
活動目標	家に閉じこもりがちな高齢者の地域行事参加	

<p style="text-align: center;">活動内容 (具体的取組み)</p>	<p>今年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のため活動を休止した。</p> <p>【百歳体操】 日時:毎月第1,2,4月曜日 13:30~14:30 場所:成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容:DVDを見ながら百歳体操を行う 対象:千本地域にお住いの65歳以上の方 目的:閉じこもり予防、住民の交流の場の提供、介護予防</p> <p>【めぐみ喫茶】 日時:毎月第3金曜日 13:00~14:30 場所:成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容:飲み物100円とおやつ50円の提供 対象:千本地域にお住いの高齢者 目的:住民の交流の場の提供、成南地域総合相談窓口(成南ランチ)の周知活動</p> <p>【りんどうのつどい】 日時:毎月第3金曜日 13:00~14:30 場所:成南地域在宅サービスステーションめぐみ3階 内容:飲み物100円とおやつ50円の提供 対象:千本地域にお住いの高齢者 目的:一人で行っても誰かと話ができる居場所の提供</p> <p>運動の機会・他者との交流・外出の機会を確保するために、地域高齢者にデイサービス利用を提案。希望される高齢者に介護保険新規申請及び通所介護の体験を支援した。</p> <p>【支援内容】 介護保険新規申請 5件 運動型デイサービス体験調整 6件 5人利用 体操・マシン・理学療法によるリハビリ・機能訓練等実施 1日型デイサービス体験調整 8件 2人利用 入浴・昼食・レクリエーション・他者との交流等実施</p>
<p style="text-align: center;">成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)</p>	<p>・令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、上記活動は自粛した。</p> <p>・地域行事に参加している高齢者が、下肢筋力低下による転倒及び骨折につながる事例はなかった。これは、早期にデイサービス利用提案及び体験によって、下肢筋力の維持及び改善・外出の機会を紹介できたことが大きな成果と言える。</p>
<p style="text-align: center;">今後の課題</p>	<p>・今年度、新型コロナウイルス感染症拡大予防のため地域高齢者は閉じこもり、その期間に下肢筋力の低下、疾患の悪化、認知症の発症等で自立した在宅生活に支障が出ている。そのため、介護保険サービス利用、施設への入所、入院、死亡等で、地域行事に参加していた地域高齢者が減少している状況。今後の課題は、自宅に閉じこもっているひとり暮らしの高齢者をいかにして地域行事に参加してもらうか。ランチ職員だけでは限界があるので、どのような働きかけをしなければならないか、検討しなければならない。また、圏域に認知症の地域住民が集う場所がないことも課題の一つである。成南地域では認知症の住民でも地域住民の見守りがあれば自立した在宅生活ができるように、喫茶や百歳体操の参加で顔の見える関係を作り、地域で認知症の高齢者を支援していく足がかりになるような地域行事にしていくことが求められている。</p>
<p>以下は、区運営協議会事務局にて記入</p>	
<p style="text-align: center;">区地域包括支援センター 運営協議会開催日</p>	<p>令和3年7月9日(金)</p>
<p style="text-align: center;">専門性等の該当 (該当個数は問わない)</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性 (拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input type="checkbox"/> 独自性</p>
<p style="text-align: center;">評価できる項目(特性) についてのコメント</p> <p>*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見</p>	<p>居場所作りの会場が地域在宅サービスステーションのため、新型コロナウイルス感染症拡大予防のために活動は休止したが、個別への支援は途切れることなく行われ地域住民から信頼は厚い。集いの場が再開された時には、一人で参加しても誰かと話ができる「りんどうのつどい」に、多くの方が参加され交流ができることを期待します。</p>

総合相談窓口(ランチ)課題対応取組み報告書

名称 西成区梅南・橋総合相談窓口(ランチ)

カテゴリー	<input checked="" type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input checked="" type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input type="checkbox"/> その他()	
活動テーマ	地域関係者と専門職との協働取組みと仕組みづくり(つながりの場づくり) ・松之宮地域での百歳体操・集いの場スマイル ・梅南おとこまえ百歳体操開催に向けて	
地域ケア会議から 見えてきた課題	・一人暮らしの高齢者が多い。特に男性は地域とのつながりが希薄である。 ・8050問題等、世帯で課題が有り様々なアプローチが必要である。 ・急激に状態が悪化し介入するケースが多く、自立した生活を送られている方でも日常的に何らかのつながりは必要である。 ・新型コロナウイルス感染症予防の観点から、大きなつながりの場から、小さくとも身近なつながりの場への転換が求められている。	
対象	・圏域内地域住民	
地域特性	・昔から住まわれている住民が多い一方、新しく移られてきた住民も増えてきた。地域関係者の高齢化が課題であり、次の世代へのバトンタッチが進まず課題が深刻化している。 ・高齢化及び独居率が高く、閉じこもりがちで社会と疎遠になる方が多い。	
活動目標	・感染予防に十分配慮しつつ、開催されている集いの場の継続支援。 ・地域と疎遠になっている方を地域と結び付ける。	
活動内容 (具体的取組み)	・平成30年度より継続して取り組んできた「梅南うた声くらぶ」については、地域関係者と専門職間で協議を重ねた結果、感染予防の観点により令和2年度については開催中止となった。 ・松之宮地域での百歳体操は地域にある特別養護老人ホームで開催されてきたが、感染予防の観点により会場を老人憩の家に変更した。新しい会場にはテレビとDVDが無い為、ネットワーク委員、地域包括支援センター(以下「包括」という)職員、総合相談窓口(以下「ランチ」という)で体操のリーダー役など分担し開催継続してきた。又地域の集いの場スマイルでも開催の継続、住民の積極的参加にネットワーク委員と包括、ランチで協力し合えた。 ・閉じこもりがちな高齢男性の居場所づくりとして、社会資源の一つとしてはぎのさと別館での「梅南おとこまえ百歳体操」開催に向け、梅南地域ネットワーク委員会と専門職間で協議を重ねる。年度末ではあるがボランティアの協力も得て、プレ開催を行った。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・松之宮地域での百歳体操とスマイルについて、感染予防の観点により令和2年4月から5月にかけて1ヶ月間休止したが、その間以外は毎週1回ずつ定期開催。体操の間では感染症や健康管理また社会問題についてなどの情報提供を行った。スマイルにおいては、参加者と「気になる人」等の情報交換などを行った。 ・開催継続に向け感染予防の徹底について情報提供を行い、参加者の自発的な感染予防と健康管理につなげる事が出来た。 ・見守り相談室と介護サービスにつながらない方を、百歳体操やスマイルの場に参加への支援を連携を行った。 ・梅南おとこまえ百歳体操のプレ開催を行い、専門職間で今後参加に繋げたい人のリストをあげ、令和3年度の本開催につなげた。	
今後の課題	・つながる場や集いの場所づくりに置いて、今後も感染症予防については課題が大きく残ると思われる。参加者や関係者自身の安全や安心の確保について、配慮が必要である。 ・つながった人の中から次の地域での担い手へのステップアップについて、地域関係者と専門職との長期的な目標及び短期的な取組みを計画していく必要がある。	

以下は、区運営協議会事務局にて記入

区地域包括支援センター
運営協議会開催日

令和3年7月9日(金)

専門性等の該当
(該当個数は問わない)

地域性 継続性 浸透性
(拡張性) 専門性 独自性

評価できる項目(特性)
についてのコメント

*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見

コロナ禍で、つながりの場の制限がされる中、特別養護老人ホームの会場を老人憩いの家に変更し、機材がないため体操リーダーをネットワーク委員や地域包括職員と役割分担し、工夫されて継続された。梅南おとこまえ百歳体操については、感染対策のため屋外で開催するなど独自の発想で実施している。介護サービスにつながらない方を、見守り相談室と連携し、百歳体操やスマイルの場につなげるといった支援についても大いに評価できる。

総合相談窓口(ブランチ)課題対応取組み報告書

名称 西成区あいりん総合相談窓口(ブランチ)

カテゴリー	<input type="checkbox"/> 地域や専門職とのつながり等	<input type="checkbox"/> 社会資源の創設(居場所づくり等)
	<input type="checkbox"/> 認知症高齢者等の支援	<input type="checkbox"/> 自立支援・介護予防・健康づくり
	<input checked="" type="checkbox"/> その他(虐待問題の啓発活動)	
活動テーマ	セルフネグレクトについて広く啓発するための活動を行う	
地域ケア会議から 見えてきた課題	単身男性高齢者が多い地域の為、虐待の相談件数がとても少ない。そこで一人暮らしでも、セルフネグレクトという問題があるということを知り、管理人や近隣住人から相談が増えるよう試みた。	
対象	あいりん地域住民	
地域特性	あいりん地域は、単身男性高齢者の生活保護受給者や、低年金受給者が多い。その住まいは簡易宿泊所転用型が多く、管理や支援、住環境が整っていない。また家族とのつながりや地域での人間関係は希薄で、アルコールやギャンブルに依存し、孤独な生活を送る人が多い。	
活動目標	地域住民、管理人、大家、近隣の商店街等、あいりん地域に住んでいる方たちに周知チラシを配り、地域の掲示板にポスターを貼っていく。1人でも多くの方たちの目に止まるよう周知していく。	
活動内容 (具体的取組み)	啓発ポスターはわかりやすい文章を心がけ、ルビをつけて誰にでも理解できるよう工夫をした。またチラシだけを配るのではなく、西成区地域包括支援センターから配布用タオルをもらいチラシと一緒に配布した。タオルの他にコロナ禍ということで手作り布マスクや使い捨てマスクと一緒に渡すとほとんどの方たちが手にとってくれて熱心に読んでくれた。	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	虐待は他人からの暴力をふるわれるものだけと思っていた方が多く、セルフネグレクトというものがあるということに様に皆驚いていた。そしてポスターやチラシを多くの方が見ることによって直接あいりんブランチに隣の住人の部屋がゴミ屋敷だ、下の住人が不衛生で臭うなど、近所の住人からの相談が一段と増えた。また対象者の知り合いからの相談はこちらも入りやすく一緒に何件もゴミ屋敷を掃除させてもらうことができた。	
今後の課題	部屋をきれいにし介護サービスにつなげて見違えるように生き生きと生活するようになった方も多くいるが、何をしても無気力で病院にすら行ってくれない方も何人かいた。今まで何十年も無気力に暮らしてきたものを変えるのはとても難しいが、根気よく接して少しでも清潔な環境で過ごせるよう支援していきたい。	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和3年7月9日(金)	
専門性等の該当 (該当個数は問わない)	<input checked="" type="checkbox"/> 地域性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続性 <input checked="" type="checkbox"/> 浸透性(拡張性) <input type="checkbox"/> 専門性 <input checked="" type="checkbox"/> 独自性	
評価できる項目(特性) についてのコメント	単身高齢者が多い地域特性から、セルフネグレクトに特化した周知ポスター・チラシを作成。わかりやすい内容でルビをつけるなど工夫をし、多くの人に見てもらいセルフネグレクトについての周知ができた。ポスターやチラシをきっかけに近所の住民から相談も増え、介護保険サービスにつなげるなど、啓発の効果があった。引き続き、セルフネグレクトを含めた地域に密着した支援を期待する。	
*今後の取組み継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見		